

タグ・ラグビー

1.概要

イギリスでラグビーリーグを基に主に年少者・初心者向けに考案されたニュースポーツ。タックルの代わりに「タグ」と呼ばれるプレイヤーの腰につけられた飾りヒモを取ることで攻撃権が変わるため、人同士のぶつかり合いが少なく年齢、性別問わず安全にプレーできる。

2.場所・コート

グラウンドや体育館、公園や浜辺でもプレーできます。

3.用具

タグ・ベルト



4.ルール

	初心者向けルール	経験者向けのルール
人数	1チーム5人	1チーム7人
時間	7分ハーフでハーフタイムは1分間	10分ハーフでハーフタイムは2分間
グラウンドのサイズ	30~35m×15~30m (ゴール・ポストは必要ない)	50~60m×20~30m (ゴール・ポストは必要ない)
得点方法	1トライは1点。トライはボールを相手ゴールラインを越えて持ち込みボールを地面に押し付けることで成立する。(固いグラウンドでプレーする際は、安全を考えゴールラインを超えるだけでトライとしても良い。)トライ後は、フィールド中央からトライされた側のチームのフリーパスでゲームを再開する。	
パス	スローフォワード(ボールを前方へ投げることは反則。相手チームのフリーパスが与えられる。	
ノックオン	ノックオンはプレイヤーがボールをキャッチしようとしてファンブルし、前方(相手のトライライン方向)のグラウンドに落とす際に起きる。ノックオンが起きたら、相手チームにフリーパスが与えられる。	
オフサイド	オフサイドはタグが起きた直後にのみ起きる。簡単に言えば、タグが起きたら、全てのディフェンダー	

		<p>はボールより自分の陣地の側に戻る努力をしなくてはならない。オフサイドの位置に故意に立ち、パスをブロックしたり、インターセプトしようとして待ち受けたりしてはいけない。オフサイドを起こすと、相手チームにフリーパスが与えられる。(タグが起きてディフェンダーが偶然オフサイドになってしまったら、出来る限り早くオンサイドにの位置に戻るか、あるいはパスの邪魔にならないようによけるようにしなくてはなりません。いかなる方法でも、相手を邪魔したり、パスをインターセプトしたり妨害したりしてはいけません。反則を適用する必要があるのは、ディフェンダーがボールキャリアーの3メートル以内のオフサイドの位置にいる場合がほとんどでしょう。ディフェンダーがオフサイドであっても、プレーの邪魔にならないのであれば、ゲームに流れを与えるために、プレーを続けさせる。)</p>
<p>タックル(タグ)</p>	<p>ボールを持ったプレイヤーにしかタグできない。タグとは、ディフェンダーがボールキャリアーが付けている2本のリボンのうちの1本を取ることである。ボールキャリアーは走り、タグしようとする相手をおかすことは出来るが、相手を払ったり、タグを守ったり、隠したりすることは出来ない。ディフェンダーは取ったタグを自分の頭上に差し出し、みんなに聞こえるように「タグ」と叫ぶ。ボールキャリアーがパスするスペースを与えるために、タグしたプレイヤーは少なくともボールキャリアーから1mは離れなくてはならない。(レフリーがいる場合は、タグが起きた際にレフリーが「パス」と叫ぶと、助けになるでしょう。)</p> <p>ディフェンダーがプレイヤーの手からボールを奪い取るようなことは許されない。</p> <p>ボールを持っているプレイヤーがタグされたら、出来る限り素早く止まろうとし、タグされてから3秒以内にパスするか、3歩以内で止まらなくてはならない。しかし、タグされた後にトライしようとする場合、プレイヤーは1歩しか許されない(プレイヤーは止まる動作の間にパス出来ます。)</p> <p>パスされたら直ちに、ディフェンダーはタックルされたプレイヤーにタグを返さなくてはならない。ディフェンダーはタグを返すまで、ゲームに加わることは出来ない。</p> <p>両方のタグが正しくベルトに付けられていない限り、いかなるプレイヤーもゲームに参加することが出来ない。</p> <p>いかなる場合でも、ディフェンダーはタグを地面に置いたり、投げ捨てたりしてはならない。</p>	
<p>タックル(タグ)の回数</p>		<p>攻撃側が5回タグされるまでトライできなかつたら、相手チームにフリーパスが与えられる。このフリーパスは最後のタグがなされた地点から行われる。(プレイヤーがタグされた時には、レフリーあるいは防御側の主将が「パス」と叫ぶかわりに、タグの数をコールします。リボンを取られた時に、プレイヤーの手にまだボールがあった時のみ、「タグ」は数えられます。)</p>
<p>フリーパス</p>	<p>フリーパスはゲームの開始(フィールド中央から)と再開(ボールがアウトオブプレーになったところ、あるいは反則が起きたところから)のために使われる。(反則がゴールラインを越えて、あるいはゴールラインから5m以内で起きた場合は、フリーパスは相手チームにゴールラインから5mの地点で与えられます。)</p> <p>フリーパスの際、ボールは両手で持ち、レフリーの「プレー」の合図で、プレイヤーはチームメイトにパスする。(レフリーがいない場合、「プレー」の合図は相手チームの主将が出します。)</p> <p>安全を期するために、フリーパスのレシーバーは、パスするプレイヤーの後ろ2m以内からスタートしてはならない。プレイヤーがボールをパスするまで、相手は前への動きをしてはいけない。フリーパスの際、初心者向けルールでは相手は5m、経験者向けルールでは相手は7m下がってはいけません。</p>	
<p>ボールアウトオブプレー</p>	<p>ボールまたはボールキャリアーがグラウンドの外に出たら、相手チームにサイドラインからフリーパスが与えられる。</p>	
<p>アドバンテージ</p>		<p>反則があった場合でも、相手チームが戦略的または地域的アドバンテージを得た場合はプレーを継続する。</p>

禁止事項

①ノーコンタクト

コンタクト(身体接触)は厳禁であり、プレイヤーの衣服もつかんではいけない。

②ボールへのダイビング禁止

ルーズボールへの飛び込むプレーは許されず、立ってボールをプレイしなければならない。

③キック禁止

タグ・ラグビーではキックは許されない。

④ハンドオフ禁止

ハンドオフとはボールを持っている選手がタグに来た選手をかわすために片手で相手を突き放すプレーのこと。

顔はもちろんのこと、体へのハンドオフも許されない。タグを取ろうとする相手を防ぐためにディフェンダーの手を払う行為も許されない。

⑤ディフェンダーへの故意のバージング

安全を図り、相手を抜くスキルの向上を促すために、ボールキャリアー及びディフェンダーは、お互いいつでもコンタクトを避けようとしなければならない。